GEKIMIN

元気な民商ニュース　夏の号外

暑中お見舞い申し上げます…　今年は梅雨明け前から猛暑日が続く異常気象。そして、福島原発事故により節電・節電と叫ばれる異常事態。熱中症とデマ報道に気を付けてこの夏を乗り切って行きましょう！

夏の号外
発行:北区民主商工会
住所:北区豊島2-13-7
電話 3913−6632
FAX 3913−6741

ホームページ http://www3.kitanet.ne.jp/~kitamins/index.html　Eメール kitamins@ma.kitanet.ne.jp

ちから合わせて復興支援

気仙川の三角州・陸前高田は両側から津波が押寄せ巨大津波となった

3月11日に起きた東日本大震災は多くの尊い命を奪い、そして多くの人々から日常を奪いました。被災者の皆さんや、そしてそのご親族の皆さんに、心よりお見舞いを申し上げます。5カ月経つ今も被災地では自治体が復旧に向けた活動を地道に行っていますが、復興には程遠い状況となっています。被災地に行くまでは「地元の人が元気になるように」とか「闘う力が湧くような支援を」と、話しあっていましたが、あまりにも変わり果てた景色の中、3月11日に被災者の方々が目にしたものを想像すると果てしない喪失感が伝わってきます。私たちに何が出来るのか…寄り添い、共に道を探りたいと思います。そして多くの方に実態を伝えて行きたいと思います。

陸前高田へ　大船渡へ

7月22日(金)～24日(日)にかけて、北区から宇津木会長を先頭に5名が参加し、岩手県の陸前高田・大船渡へ行き、炊き出し支援活動を行いました。

北区民商としては初めての支援隊。東京に大雨をもたらした台風6号の進路を気にしつつ、22日(金)夜9時20分に北区民商を出発しました。

参加したのは、宇津木会長、豊島支部の沼田さん、そして事務局員3名。同乗者として足立西民商2名、東青協幹事の倉下さん(新宿民商)と全商連事務局の4名。計9名で岩手県陸前高田・大船渡を目指しました。最終休憩地点に決めた、長者原サービスエリアへ着いたのは午前3時30分。仮眠を取りつつ時間調整をしていると、八王子民商の方々も到着し、合流となりました。そして同じサービスエリアに尾道民商が贈った釣り船もトレーラーに積まれて休憩中。シートには『絆・尾道から東北の仲間に希望のエール漁船を届けよう』と、メッセージが書かれていました。これを発見した一同、「民商ってスゴイ！」「こういう支援もあるんだね…」「3艘も贈ったらしいよ…」など、仲間同士の絆の深さに感動し、私たちも励まされ、現地を目指して再度出発です。

校庭内に並ぶ仮設住宅

かき氷も大人気です

広島県から高速を走ってきた船

やきそば作りに集中！宇津木会長と沼田さん

一関で東北自動車道を降り、陸前高田を通り、大船渡民商へ向かいます。街の風景から3月11日の様子を想像し、胸が締め付けられる思いに駆られながら、先入りしている清瀬・久留米民商と合流。すぐに支援物資の荷降ろしと、炊出し準備に掛かります。

今回、2カ所に別れ炊き出しを行いました。大船渡市・末崎中学校グラウンド仮設住宅を会場に八王子民商が、そして私たち北区は他民商の方々と共同で、陸前高田市・米崎小学校グラウンド仮設住宅を担当しました。

米崎小学校は150世帯195名が暮らす仮設住宅です。300食分の材料を用意し、滝野川支部・北南支部直伝の焼きそばに取り掛かります。機材は民商まつり常連の北南支部と、王子支部・塚本さんから提供していただき、見よう見まねでセッティング。結構うまく行きました。味付けだって直伝です。マズイわけがありません。おかわりしてくれる人もいて、大人気のうち終了しました。

清瀬・久留米民商の方々と佐藤さん

テントの中も外も子供たちでいっぱいに・米崎小学校

支援行動に参加して

民商の仲間に誇りを感じる

大船渡の中心街の光景は想像をはるかに超えたもので、正に廃墟となっていました。大きなデパートの2階は壁ごと吹き飛ばされたようで、たくさんの商品があったであろうフロアには間仕切りも含め何も無く、天井のひびに突き刺さるようにぶら下がっていた何枚かの衣服が津波の凄まじさを感じさせました。そしてそれよりも被害の大きかった陸前高田に入りましたが、湾の両側から津波に襲われ、30メートルの高さまで水が押し寄せたという町並みは、全てが流され町の痕跡さへ無くなっていました。まだまだ復興という段階には程遠い現状で、私たちが出来ることは何なのか考えさせられます。それと同時に、復興に向かって進むべき時に被害の拡大を続けている福島原発事故には本当に怒りを覚えます。

報道で経団連の会長が、「停止中の原発の早期稼動をさせなければ経済が停滞し、企業が海外に逃げ出す」との発言をしたようですが、人の命や暮らしを犠牲にしてでも優先される経済発展など意味がありません。そんな企業が仮に海外に出て行くなら、残った人々で新しい産業を一緒に作っていけば良いだけです。

行きの高速道路パーキングで、尾道民商から贈られた大きな船を積んだトラックを見ました。大船渡民商には各地からの寄せ書きが壁一面に張り出されていました。そして今回、東京の民商が協力してボランティア活動を行いました。互いに顔も知らない人たちが、民商の仲間というつながりでこれだけ心を通わせ会えるということに、あらためて民商の一員であることの誇りと喜びを感じます。

鳥居

大船渡・茶屋前商店街の街路灯　津波に壊され繁華街の見る影なく…

陸屋根になってない高田高校校舎

要求の声をあげ復興への道進もう

一関インターから一般道に入って、のどかな山間の風景が続きます。坂道を下りきり、ワッと視野が開け海が見えると、そこが陸前高田でした。見渡す限りの平地…ところどころに建物が残り、その建物以上に高く積まれた瓦礫の山…。瓦礫の山と山の間には夏草が茂り、人の暮らしや営みを感じるものは何一つ有りません。ただ、最上階の窓ガラスまで割れ、津波の跡が黒々と残る高田高校の校舎を見た時、背筋が寒くなりました。避難所に指定されているであろう学校が、最上階もガラスが割れ浸水している…避難者はどうなったんだろうと。

24日、清瀬・久留米民商の方々の案内で、大船渡・陸前高田を巡りました。大船渡の未だ集積されていない瓦礫の街が商店街だったことを、へし折れた街路灯が教えてくれました。

防風林として植えられていた松林も跡形なく、1本だけ残った松も1メートル近く沈下した周辺は潮に洗われていました。店や家や土地や家族を…一瞬にして失った方々を思うと胸がつまります。私は、被災者の分も声をあげ、復興に向け共に歩んで行きたいと思いました。帰り道、『ありがとう　私たちは負けません』と書かれた小さな看板を見つけ、ほんの少し救われる思いで帰路につきました。

吉井

奇跡の一本松・塩害か葉は茶色に

沈下・水没した一本松前のホテル

被災地の状況多くに伝えたい

長者原サービスエリアまで300数十キロ運転し、眼が覚めたら八王子民商と合流。尾道民商が贈った船が、トレーラーに積まれているとの話が耳に入り、すぐに写真を撮り、運転を足立西の小林さんに交代し、瓦礫の中を大船渡民商へ向かいました。

到着後すぐに炊出し準備に取り掛かりました。私は全員の包丁を、持参した砥石で研ぎました。それからキャベツを切り、陸前高田・米崎小学校グランド仮設住宅において、会長・事務局長を先頭に炊出し。美味しさ抜群の焼きそば300食を午後3時から配布。長い列が出来ました。かき氷も人気があり、最後まで盛況でした。翌日、清瀬・久留米民商会長さんの案内で震災跡地を巡りました。港も、家も、学校も、お墓も土台だけ。みんな流され見る影もない有様でした。午後2時頃帰路につき、夜9時30分頃民商に到着し解散しました。見てきたもの、感じたことを多くの方に伝えたい。

沼田

港に沈む家・大船渡港

出来ることで被災者支えたい

サービスエリアで尾道民商が被災地に贈った船を発見。民商は全国組織と改めて実感した場面でした。大船渡民商に向かう景色に飛び込んできたのは瓦礫の山と病院や学校が中はがらんどうで建物だけが残っている風景。震災から5ヶ月も経ち瓦礫の整理が進んでいる一方、街の整備はこれからだなと感じました。3月11日の震災の時を思い胸が痛みました。

炊き出しでは、準備の時から子供たちがわいわいと寄ってきました。かき氷には子供の列ができお年寄りの方も大変喜んでくれていました。清瀬久留米民商の震災直後からの支援活動もあり住民の方からとても温かく受け入れて頂きました。仮設住宅に家族6人で暮らす女性の方が「地震の事は思い出すだけで怖いが私たちはまだ入れない人も大勢いるが仮設住宅に入れて恵まれている。地震以後、生活は何とかできるがそれぞれ思いを抱えているので話しを聞いてもらいたい人が多いと思う」と話されていたのが心に残りました。

翌日は中村会長の案内で陸前高田市を見て回りました。津波で2隻の船が衝突した現場や市街地のスーパーや薬局など廃墟が残された街に騒然としました。支援の仕方は色々あると思うので出来る事をして行きたいと感じました。

宇都宮

現場で実感・宇津木会長と事務局長